

学会発表演題

(1→3) β - D - グルカン濃度からみた透析器の洗浄法の評価

第 64 回 大阪透析研究会

第 51 回 日本透析医学会学術集会

和田 茂・丸山禎之・赤木尚子・宮田奈々恵・河井里枝・福永満月子・岡本真由美・佐々木敏作(佐々木内科クリニック 腎センター)

【目的】近年、透析液の清浄化が重要とされているが、血液流路内の清浄度についての議論は少ない。そこで今回、透析器の洗浄法の違いによる透析膜の残留濃度から洗浄法の評価を行った。

【方法】CLEE-15NL (CL) を用い、洗浄後の回路内の残留(1→3) β - D - グルカン濃度 (β 濃度) にて評価した。洗浄速度は 100、200、300ml/min とし、洗浄量 500、750、1100、1500ml にてサンプリングを行った。またガスパーズ施行時の洗浄効果も評価した。

【結果】CL の充填液中の β 濃度は 41.9 ± 11.2 pg/ml であった。洗浄速度 100ml/min における洗浄量 500, 750, 1100, 1500ml 時の β 濃度は 1452, 908, 705, 634 であり、200ml/min は 956, 461, 427、300ml/min では 447, 421, 351, 308 となった。ガスパーズの併用時の洗浄速度 100ml/min は 5240, 26700, 3440, 612 となり、300ml/min では 198, 214, 189, 138 であった。

【結論】透析膜由来物質の除去性は洗浄速度と洗浄量に依存しており、 β 濃度は 300ml/min での 1500ml の洗浄が低値を示した。さらにガスパーズの併用ではより β 濃度は低値を示した。